

5 1 「千葉県を歩く2 九十九里海岸へ」

■ 11月2日（土）

11月に入り天候が安定してきた。それと、今年は11月に入ってもそれほど寒くない。長距離を歩くためには暑くなく、寒くなく、雨でなくというのが望ましいので、それを考えると歩きに適した日は意外と多くない。昨日は秋晴れのいい天気だった。今日の予報は曇りなので、暑くならず絶好の歩き日和になると思い出かけることにした。今回は九十九里方面を目指そうと思う。今日の目標は長柄町（ながらまち）まで、足の調子が良ければ茂原まで行きたい。

9時に家を出発。県道13号（市原茂原線）に入り、海保、今富、神代、分目と進んでいく。

1時間と少し歩いて国道297号線との交差点（新生十字路）に着く。房の駅（地元産物マーケット）でコーヒーを飲み一休み。10分ほど休み10時半スタート。

歩いていると多くの家の庭に柿の木があり、とくに葉は落ちてしまっているが、実だけはほとんどそのまま残っている。舗装道路に落ちた実は、種を土に返すこともできず、無残で哀れな姿を晒していた。歩きながらよく目にする、舗装道路の割れ目などに生える雑草は、厳しい環境でも充分繁殖できるようにデザインされているのだろうと思うと、胸がキュッと締め付けられるような感動を感じる。

しばらく行くと広大な敷地にメガソーラ発電所（新エネルギー活用推進プロジェクトの施設）があった。こんなところに大規模な太陽光発電施設があるとは知らなかった。

小湊鉄道の踏み切りのところで2時間経過。1時間6kmのペースで歩いて来たので少し足が痛くなってきた。

房総うぐいすラインと県道13号の川在交差点を過ぎたの



道路の脇に群生するススキ



葉がすべて落ち、実だけが残る柿の木



舗装道路に柿の実が

がちょうど11時。磯ヶ谷地区に入る。この辺りはゴルフ場が多く、次々とゴルフ場が現れる。

しばらくすると空には厚く雲がかかり、空気が湿ってきた。曇りと予想していたが雨が心配になってきた。予報では、今日は曇りで明日が雨だったのである。ここで雨に降られると、雨具の用意はないし、雨宿りできそうな場所もないのでずぶ濡れになってしまう。雨のことを心配して丘のアップダウンを速足で抜けたので、かなり足が疲れてきた。

12時を少し回って、やっと市原市から長柄町（刑部地区）に入った。この道は別名「関東ふれあいの道」という名前が付けられている。今にも降り

そうなのでできるだけ急いで歩く。

時刻は12時半、刑部地区中心の辺田というところで食堂(しばた)を見つけた。雨が心配だが、このまま歩き通すことは難しい。左足の付根あたりが痛く足全体がかなり疲れているので、休みを兼ねて昼食にする。

食堂のおばさんに“この先にバス停はありますか?”と訊くと、歩いて数分のところのT字路を左折してすぐにバス停があるという。

助かった! そろそろ路線バスの通っている地域が近いとは思っていたが、本当に良かった。雨の心配もあるし、このままではどんなに頑張ってもあと1時間(5km)くらいしか歩けないだろう。おばさんにバス停を訊いたことがきっかけとなって、先客の労務者風の人(2人は私と同じくらい、1人は30歳くらい)と話した。姉ヶ崎からここまで歩いて来たと聞けば当然みんな驚く。一人は姉ヶ崎に住んでいたことがあるという。

30分ほど食事休憩して13時ちょうどに出発。案の定雨が降ってきた。このくらいの霧雨なら濡れる心配はないが、これ以上降るとビショ濡れになってしまう。

店を出るとすぐにバス停があったが、これは長柄町コミュニティバスの停留所だった。歩いて約10分、T字路があった。右折すると笠森観音方面、右折すると茂原方面だ。バス停はすぐわかった。

小湊バスの茂原~大津倉の路線で「刑部」という停留所だった。

時刻表を見るときはドキドキだった。先に見た下り方向の時刻表で、バスは2~3時間に1本しかないことがわかったからだ。恐る恐る見ると、良かった! 13時24分発があった。現在13時10分である。その次を見ると16時14分、何と何と! 3時間後だった。本当にラッキー、わずか10数分待ちでバスが来る。

今日はとてもついていた。雨に降られては困るので、速足で歩いたことで思いの外足の疲れが早かった。ところが、たまたま入った食堂でバス停が近くにあることがわかった。もし、歩いてたどり着ける距離にバス停がなければ、誰かの車のお世話になるより仕方ない。そして薄着で雨に濡れれば、確実に風邪をひいてしまうだろう。

今回1つ貴重な経験をした。雨の可能性が少しでもあれば必ず雨具の用意をし、速足で歩かなくてもよいようにしておかなくてははいけないということだ。余裕を持って歩くことが長距離を歩き通す秘訣なのだ。

今日歩いた距離は18kmくらいだろう。刑部からJR茂原駅はまだかなり距離があり、バスで20分以上かかった。

駅で熱いコーヒーを飲みやっと一息。ここまで来ればもう歩く必要がな



長柄町に入る



バス停(屋根付きでよかった)



い。今日はきつかった。次は、刑部から茂原を経由して目標の九十九里まで約22kmだ。天気のいい日を選び、余裕を持って歩くことで何とか一日で歩き通したいと思う。

■ 11月9日（土）

今日は前回の続き、九十九里海岸まで歩き通すつもりだ。今日は午前中晴れ、午後は曇りで夜になると天気が崩れるという予報。昨日は快晴で絶好の天気だったので、もう一日早ければ良かった。

内房線、外房線を乗り継いで茂原、そこからバスで前回の終了地点「刑部」まで来た。ここまで家から2時間。10時10分、バスを降りてまた来た方向に歩き始める。

気温は12、3度だろうか、向かい風で少し寒い。今日は雨が降ってきても大丈夫なように、フード付きのウインドブレーカーを着てきた。この前バスで通ったときに見たほぼ同じ場所で道路工事が続いていた。1週間経ってもあまり進んでない感じだ。

この辺りは水田地帯で道の両側に田圃が続いている。20分ほど歩くと、見覚えのある自家製ハム・ソーセージの店「アンデルセン」があった。以前、自転車で九十九里方面に行った時、ここでハムを買ったことがあった。今日は荷物になるので買わなかった。ここは立鳥という地区のようだ。

10時50分、長柄町役場を通り過ぎる。このような場所には不釣り合いな近代的な建物である。

もう既に雲は厚く垂れ込め今にも降りそうだ。雨の用意はしていると言うものの、できれば降らないで欲しい。

歩道に史跡「長柄横穴群」という表示、ここから1.8kmほどのところに横穴群があるらしい。三本松というバス停の近くだった。



11時10分長南町に入る。入るとすぐに、これまで見ることがなかった工場（鉄工所）や化成品加工工場などが現れた。

県道13号もこの辺りになると結構交通量が増えてくる。歩道が充分整備されていないので、注意しながら歩かなくてはならない。

上茂原の交差点を11時半に通過。次第に郊外型の大型店舗が現れるようになってきた。今日は前回に比べて足の疲れが早い。左足の付け根（外側）、右ヒザの裏側、両足甲のスジが徐々に痛くなって来た。茂原に着いて昼食をとり、1時間ほど休んでさらに続けて歩くことはできるだろうか？もし痛みが回復しない場合、午後は諦めなければならないだろう。

市内に入りルート間違い国道128号（東金方面）に入ってしまった。そのため15分（1.5km）ほど余計に歩くことになった。

茂原駅に12時35分着。12時頃からごく僅かだが雨が降り始め、駅に着く数分前には本格的に降ってきた。足がかなり疲労していることもあり、午後雨の中を歩く体力・気力はなくなってしまった。

途中全く休まず歩き続けたためか、最後はエネルギー不足気味になった。朝食はしっかり摂ったつもりだったのだが。長距離を歩くのは結構難しい。

今日のように、歩いているうちに思った以上に早く疲れが来ることもある。難しさは、その日の体調によるところが大きいことだ。

今日は22kmを歩き通して、九十九里海岸に到達するつもりだったが、13kmほどしか歩くことができず挫折した。綿密な計画を立て、人の世話にならず自力で帰ってくるようにすることが必要だ。

結局、家から九十九里までは3回に分けて歩くことになった。



茂原メイン通り（大きい建物は市役所）

■ 11月16日（土）

昨日の時点で今日行くつもりではなかったが、天気予報がとても良かったので急遽歩きに出掛けることにした。別に決めていたわけではないのだが、偶然3回とも土曜日になった。

8時半ころ家を出てJRで茂原に向かう。

今日は雲ひとつない良い天気で絶好のウォーキング日和だ。

10時茂原駅スタート、県道84号を東に向かって歩き始める。前回より道路幅が広く歩道も整備され平坦で歩きやすい。それにこの道路は路線バスが通っているの、途中で足が痛くなり歩けなくても安心だ。バスも30分～1時間に1本はある。

市内は郊外型のチェーン店があり結構交通量も多い。現役のころ全国各地に出張して多くの街を見たが、必ず全国展開しているチェーンの店舗があるので、どの街も似ていて都市の特徴が失われているように思う。

10時半長生村に入る。「ナガイキ」村ではなく「チョウセイ」村という。長生村に入ると、道路の両側に田圃が見られるようになった。

風は北風だが陽射しが強く、この季節にしては気温が高いので爽やかで気持ちいい。さすがに虫の姿は見えなくなった。こんな天気のいい時に歩くのは本当に楽しい。

県道123号との交差点「鈴賀神社」を過ぎると、急に道路幅が狭くなり歩道がなくなった。大型トラックが通過するたびに注意して避けなければならない。時刻は11時を少し回ったところだ。

この辺りは長生村「驚（おどろき）」という変わった地名で、どうしてこのようになったのか知りたくなった。（※1）



いい雰囲気のパーク

今回はただ道路を歩いただけだが、長生村は自然豊かでのんびりして暮らしやすいところだと感じた。電柱に「海までの距離1.5 km・海拔2.5 m」とあり、もう海に近いところまで歩いて来たことがわかった。

1時半過ぎに一松海水浴場の入口に到着。北欧建築を思わせる外観のホテルもあり、急にリゾート地の雰囲気になってきた。サーフィンボードを担いだ人もいる。

1時45分、やっと海岸に着いた。空は雲一つなく快晴。海は波が高く陽の光でキラキラ光っている。海は開放的で本当に気持ちがいい。高い波はサーフィンには絶好のように感じたがサーファーはいなかった。



平坦な直線道路が続く（長生村）



一松海岸



一松海岸

目的の九十九里浜に辿り着いたので、ここで終わりにしてもいいのだが、もう少し歩けそうなので海岸線に沿って北上することにする。リフレッシュして12時少し過ぎ海岸を後にする。

どこかで昼食を食べながら休憩しよう。歩き始めるとすぐに白子町に入った。

白子町は温泉とテニスの町で、ペンションに泊まりながらテニスを楽しんでもらうことを売り物にしているようだ。旅館やホテルなど宿泊施設が多い。

20分ほど歩いて「山中庵」という食堂を見つけ入る。食事時で満員だった。看板などから由緒ある店のようだ。テニスのグループらしい4、5人ほどの客が2組いて、大声で話している。一級建築士試験の話をしているところを見ると、どこか大手建築会社の社員のような。28階がどうか言っているのが聞こえた。中年の上司と若手メンバーでテニスを楽しみに来たといったところか。空腹の中、40分ほど待たされてやっと注文が出てきた。



白子町に入る

バスターミナル「白子車庫」まで歩いていくことにした。13時20分出発、店の人に訊くとここから10分ほどらしい。今回の最終地点がバスターミナルというのも少し寂しいが、よしとしよう。

このターミナルからは、茂原駅ばかりでなく大網駅行きもあるので都合がいい。到着するとすぐに大網駅行きの便があり、来た道と違うルートで帰ってきた。

今日は14～5 km歩いたが、体力的にはあと5 kmくらいは歩けたと思う。今日は天気にも恵まれ楽しく歩くことができた。時間を気にせず、自由に思いのままに歩けることに感謝。

(2013年11月16日)

(※1)

千葉県長生郡白子町とその隣の長生村に「驚(おどろき)」という全国的に極めて珍しい地名がある。

平安時代末期に開拓されたこの地は、ごくありふれた農村だった。しかし、江戸時代に入りこの地を支配することになった代官が再検地したところ、実際は開拓地が広く増石することになり“「驚き入った」次第なり”と、それ以降は「驚村」と称したという。山形県西置賜郡小国町にも驚(おどろく)という地名がある。

